

---

## 研究活動報告

---

### 特別講演会

#### イブ・シャルビ教授 「マルサス再訪～発展について（人口，経済，宗教）」

2013年3月21日（木）午後4時より，当研究所にて，フランス・パリ大学デカルト校教授，CEPED（フランス人口開発センター）所長のイブ・シャルビ氏が「マルサス再訪～発展について（人口，経済，宗教）」と題する講演を行った。

シャルビ教授はまず，CEPEDの活動内容について概説された後，本題であるマルサスの人口論について，その内容は版を重ねるうちに論点の変容しており，その中で矛盾が見出されること，その矛盾の独自の解釈について説明された。

質疑応答では，幾何学的増加と算術的增加の違いはあるか，マルサスの時代の出生調節について，農村部と都市部の違いが反映されていたか，マルサスの考える慈善事業とは社会保障につながる思想であったのか，といった点が議論された。（林 玲子記）

### 日本人口学会2012年度・第2回東日本地域部会

日本人口学会2012年度第2回東日本地域部会は，2013年3月23日（土），中央大学後楽園キャンパス（東京都文京区）にて開催された。報告タイトルと発表者は下記の通りである。

- 「兵庫県の還流移動（Uターン移動）—配偶関係に注目して—」  
..... 貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）
- 「札幌市の配偶関係別純移動率1995年-2000年：推計モデルと国勢調査再集計の比較」  
..... 原 俊彦（札幌市立大学）
- 「わが国の出生率回復における地域差の要因分析」..... 石井憲雄（東北大学）
- 「新宿区の将来人口推計—将来の住宅供給を考慮したコーホート・シェア延長法の提案—」  
..... 丸山洋平（新宿区新宿自治創造研究所）
- 「日本における政治不信の拡大」..... 三船 毅（中央大学）  
中村 隆（統計数理研究所）
- 「東日本大震災が被災地事業所の雇用に与えた影響」..... 鈴木俊光（内閣府）  
（貴志匡博記）

### 日本地理学会2013年春季学術大会

日本地理学会2013年春季学術大会が2013年3月29～31日（31日は巡検のみ）に立正大学熊谷キャンパス（埼玉県熊谷市）において開催された。一般発表196件，ポスター発表87件のほか，9つのシンポジウムで62件の発表があった。人口関連分野の報告も多数行われた。以下，主なものについて発表題目を紹介する。

- 「東京23区における平均世帯規模の縮小と世帯構成の変化—1965年～2010年」  
 ……………桐村喬（立命館大・PD）
- 「台湾系留学生の移動選択について」……………李政宏（早稲田大・院）
- 「都道府県別75～84歳，85～94歳心疾患，脳血管疾患死亡率の季節変化」……………北島晴美（信州大）  
 太田節子（信州医療福祉専門学校）
- 「東京大都市圏周縁部における戸建住宅居住者の特性と通勤行動  
 —千葉県木更津市の新興住宅地を事例として」……………嵩大樹（法政大・院）
- 「超郊外の別荘型住宅地における定住化と高齢化の進展  
 —栃木県さくら市喜連川の温泉付住宅地の事例」……………橋詰直道（駒澤大）
- 「空間的形態からみた上海における日本人集住地域の形成過程—古北エリアを事例として」  
 ……………周雯婷（筑波大）
- 「東京大都市圏における住宅取得行動の変化」……………久保倫子（明治大・学振PD）
- 「大都市圏郊外における通勤流動について—生駒市を例に」……………稲垣稜（奈良大）
- 「大都市圏における少産少死世代の居住地選択に関する予察的考察」……………川口太郎（明治大）
- 「郊外ニュータウン周辺の住宅開発と郊外ニュータウン内部の住宅再開発  
 —千里ニュータウンを事例として」……………香川貴志（京都教育大）
- 「郊外住宅地における女性就業と子育て—広島市高陽ニュータウンの事例」……………由井義通（広島大）
- 「東日本大震災の被災住宅団地の高齢化問題」……………千葉昭彦（東北学院大）  
 （山内昌和 記）

### 第3回 ADBI-OECD-ILO アジアの移民に関する円卓会議

「アジアの移民に関する円卓会議」は，アジア開発銀行研究所（ADBI），経済協力開発機構（OECD），及び国際労働機関（ILO）による共催で，2011年より定期的に開催されているものである。今回は，同会合の3回目の開催であり，タイ，バンコクにて，1月23～25日までの3日間の日程で開催された。会合では，各国労働市場の労働移民に対する参入要件，及び地域内における労働者の技能の移動性を高める政策（Accessing labour market requirements for foreign workers and developing policies for regional skills mobility）について発表，及び意見交換が行われた。当研究所からは，人口動向部より是川が参加し，日本の労働市場における外国人労働者の技術携行性について，“The Diverging Destinies? Assessing Skill Portability of Foreign Workers in Japan”のタイトルで発表を行った。以下に会合の概要を紹介する。

会合では各国の移民送り出し政策担当者が，自国の政策を紹介するという部分と，国際機関や研究機関の研究者がその要因や背景についての分析を紹介するという，主に2種類の発表から構成されていた。各国担当者の報告は，多くの参加国がアジアの移民送り出し国であるということもあり，国の政策における外貨獲得手段としての移民送り出し政策の重要性，及び移動先の国での自国民の人権保護といった観点からの発表が中心であった。一方，OECDも含め，受け入れ国である先進国側からは，先進国間の移動も含めた高度技能者の受け入れの重要性を指摘する報告が主であった。こうした中，日本の労働市場における外国人労働者について，定量的な分析を行った是川の発表に対して，参加者から高い関心が寄せられた。なお，同会合の資料はADBIの同会合に関するホームページで公開されている。（是川 夕 記）